



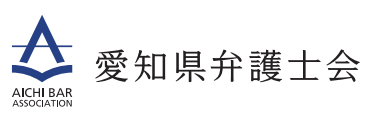
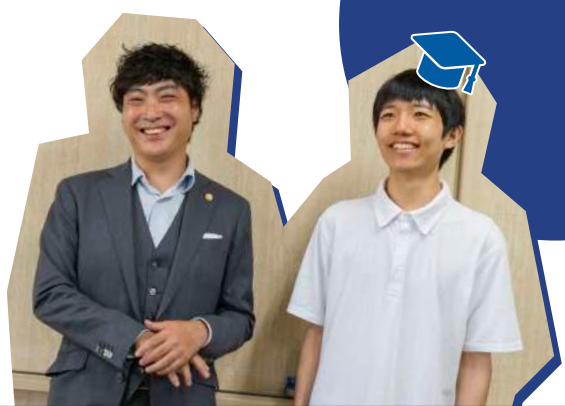
NAGOYA CSR REPORT



～“名古屋市×企業・団体”で挑む社会課題解決～



MS&AD あいおいニッセイ同和損保



はじめに

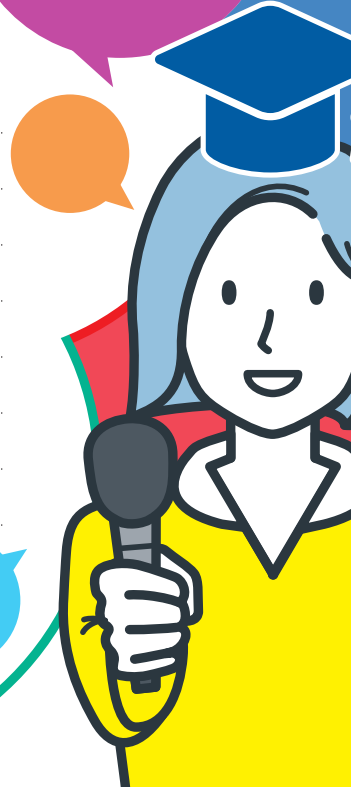
人口減少や少子高齢化といった社会の変化に伴い、
地域社会が抱える課題も複雑化・多様化しています。

このような状況において、名古屋市では民間企業や大学など
多様な主体と連携して様々な課題の解決に向けて取り組んでいます。

さらに持続可能な社会をつかっていくには、
次世代の担い手となる若者たちにも、どんな課題があり、
どのように解決に向け取り組んでいるのか知ってほしいと考えています。

このレポートでは、名古屋市と包括連携協定を結び、社会課題解決に挑む
7つの企業・団体を学生29名がチームに分かれてそれぞれ取材し、
作成した記事を掲載しています。

若者ならではの視点で記された記事を通して、
同世代のみなさんに連携事業の内容、成果、意義を知ってもらい、
課題解決に取り組むきっかけになれば嬉しいです。



記事を読む前に知っておこう！

「包括連携協定」ってなに？

特定の分野に限ることなく、市民生活の幅広い分野において取り組みを進めるための連携のことです。

名古屋市では2023年11月現在、
地域の活性化や市民サービス向上に向けて、17企業3団体と
包括連携協定を締結しています。



「社会課題」ってどんなもの？

まちが抱える解決すべき様々な問題の総称です。

このレポートでは、特に現時点で
市役所の各部署だけでは
解決が難しい課題を指します。



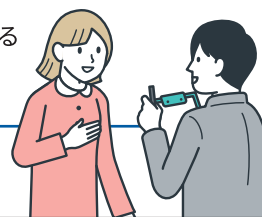
市と企業・団体が連携すると、どんなメリットが生まれるの？

●企業・団体にとって...

公共活動を通して、社会が企業に求める役割を果たし、企業価値を高めます。
自社の研究成果を実証しながら社会に還元することができ、
新たな事業拡大のきっかけとなる場合も。
多様な事業は人材育成にもつながります。

●名古屋市にとって...

民間企業などの豊富なアイデアやノウハウの活用により、公共サービスの質を向上させ、
地域をさらに活性化することができます。
歳出を減らしながら社会課題を解決できる可能性も。



お互いに良いことがあるんだね！
じゃあ、具体的な連携をみてみよう！



防災で地域に寄り添う イオンとのまちづくり

イオン株式会社が力を入れている防災の取り組み取材しました。同社は人を大切に想い、持続可能な成長と地域社会に貢献するグループを志す企業です。地域に寄り添う防災の取り組みについてご紹介します。



質問1. 名古屋市と連携して、どのような事業を行っていますか？

2014年10月に包括連携協定を結び、名古屋市のみなさまによりよい暮らしを送っていただける様々な活動を行っています。例えば、環境保全のための植林やイオン店舗での観光PRなど。なかでも特に重点を置いているのは、「防災」の取り組みです。大きな災害が起きた際に、たくさんの命を守る力になれるよう、非常時の事業継続計画とマニュアルを整備しています。

社



質問2. 防災に特化した、その他の取り組みについて教えてください。

ご当地WAONのひとつとして、「防災・減災都市なごやWAONカード」を発行しています。お支払い金額の一部を「消防・防災事業寄附金」として名古屋市に寄付し、災害に強いまちづくりに役立てられるカードです。さらに、定期的に地域の避難訓練などに参加し、将来の災害に備えて実践的な活動に力を注いでいます。

社



質問3. SDGs実現に貢献するためにこういった活動をしていますか？

1965年から、全国各地でイオンモールができるたびに木を植えてきました。当社の社会貢献の原点ともいえる活動です。近年、SDGsへの注目が高まる中、取り組みを一層向上させるため、イオンモールナゴヤドーム前が、持続可能な地域・社会づくりに取り組む企業・団体・大学を対象とした、「名古屋市SDGs推進プラットフォーム」の会員になりました。例えば、地域のみなさまへ向けた防災講座として「0を1にする防災」をテーマにクイズラリーや工作、防災劇、座談会を開催しています。防災を中心とした環境に配慮した活動を通して、安心して、安全に住み続けられるまちをつくりたいです。



AEON Co., Ltd.



社

イオン株式会社

小売事業を起点とし、ショッピングモールの開発と運営を担うディベロッパー事業、総合金融事業、サービス・専門店事業などを展開。「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。」という基本理念のもと絶えず革新し続け、くらしの共創をリードし一人ひとり社会全体もより豊かにするグループを目指す。

取材の感想...

防災への知識の深さや災害が起こった時の対応の速さは、地域や人を大切にするイオンだからこそできる取り組みだと感じました。将来を担う私たちが積極的に防災に取り組む。この行動が自分や大切な人たちの未来を守りたいです。



子どもたちと、 これからの法教育

愛知県弁護士会特有の法教育に関わる取り組み取材しました。講師派遣や冊子の配布などで弁護士会のみなさんが子どもたちのために法の考え方を伝えていると知りました。名古屋市と連携した実践的な法教育について紹介します。

質問1. 名古屋市と連携した取り組みを教えてください！



愛知県弁護士会内の法教育委員会では、学校での法教育に関する授業の実施や、名古屋市教育委員会との法教育研究会を開催しています。前者は、主に名古屋市内の小中学校・高校に複数人の弁護士を派遣して、児童生徒に授業を行い、法の精神を学び身近に感じてもらう取り組みです。後者の研究会は、市の社会科教員と話し合って法教育の授業案を作成し、実践するというもの。2005年から連携して活動を開始し、2008年に正式な組織となりました。全国的にも珍しく貴重なつながりといえます。

社

質問2. どのような授業を行っていますか？



模擬裁判やグループ討論など、体験型の授業を特徴としています。目的は、子どもたちに正解がひとつではない問題が多くあると知ってもらうことです。グループ討論では、各グループにひとりずつ弁護士が付き、主体的な話し合いをサポートします。授業を通して、子どもたちが他者の考えを尊重しながら話し合い、自分たちの意見を導き出す姿を見ることができました。

社

質問3. これからの法教育のビジョンは？



2020年から「小学校向けの法教育ニュース」を発刊するようになり、それまでは中高生を対象としていた法教育が小学生にまで広がりました。このように、子どもたちが法教育に触れる機会を名古屋市と弁護士会との協力によりつくっています。弁護士会による法教育を名古屋市の学校とのつながりからより多くの学校へ、そして子どもたちへ広めていきます。



社



社

取材の感想...



「弁護士会」と聞いて、はじめは堅い印象でした。しかし、「法教育委員会」の方々の子どもとの接し方はユーモアも交え楽しそうで、印象が変わりました。法を身近に感じてもらい、多様な意見を尊重して自分の視野を広げる法教育は大事だと改めて感じています。

愛知県弁護士会

愛知県内に本会（名古屋市）と西三河（岡崎市）、東三河（豊橋市）、一宮、半田の四つの支部を持つ弁護士会。所属する弁護士は2,100名程で、基本的人権の擁護と社会正義の実現のために、多種多様な委員会、協議会、対策本部等を設けあらゆる分野で活動。市民の法的需要や期待に応え、様々な法制度の改革を進めている。

安心を提供して 名古屋市を元気に

明治安田生命保険相互会社に取材しました。同社は、健康増進を通して地域社会との絆を深め、人々に安心を提供している企業です。名古屋市を元気にするために行われている、市民や企業に優しく寄り添った取り組みを紹介します。

質問1. 名古屋市と連携してどのような事業を行っていますか？



保険ご加入時やお客様宅への訪問時などに伺った課題に合わせ、例えば、市のがん検診といった行政支援を紹介する「行政サービス案内」を行っています。その他、企業を対象に、社員の健康増進への取り組み方に関する講座と、各社の取り組みについて意見交換していただく座談会からなる「健康経営セミナー」なども開催しています。

社

質問2. 名古屋市と連携する目的は？

「安心して子育てできる」、「いきいきと暮らせる」など、名古屋市が理想とする都市像を目指し連携しています。さらに、愛知県の主要都市として新規事業に先進的に取り組み、県内の他の自治体へ普及させることで、県全体の活性化も目指しています。

社



質問3. 連携事業の意義や効果を教えてください。

「行政サービス案内」は、自治体の発信が市民に行き渡らないという課題を解決するために始めました。お客様からは「必要な情報を手にできた」といったお声をいただいています。「健康経営セミナー」では、「他社との交流を通じて、健康増進という前例のない課題と向き合う孤独感が軽減された」とのご感想も。これらの事業を通じて、市民のみならず企業の方に安心を届けたいと考えています。

社

質問4. 今後のビジョンについて教えてください。

名古屋で暮らす人たちに、「明治安田生命なら」と安心感を与える存在でありたいです。そのために、「行政サービス案内」のさらなる普及を目指すとともに、「ヤングケアラー支援」など様々な世代に沿った支援の継続に努めていきます。



取材の感想...

紹介した事業をはじめ、市のニーズに合わせて幅広い事業を行っている点は、市民や企業に寄り添って安心を届ける明治安田生命のやさしさそのもの。幅広い事業で市を元気にしたい、という熱い想いを伺えたことは貴重な体験でした。公民連携を通じて、市民や企業の健康を的確に支援しようとする姿勢に、私たちも安心を覚えしました。



明治安田生命保険相互会社

相互扶助の精神のもと、生命保険事業のパイオニアとして、お客様そして地域社会を支える。従来の保険商品・サービスのご案内やコンサルティング活動のみならず、お客様の健康づくりへの支援や、豊かな地域社会づくりをサポートする、社会貢献型の活動を行うことで、地域のみなさまの発展に貢献。

社



走行データで 快適なまちづくり!

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社では、自動車保険の車載器の技術や、新しい情報技術を活用した社会貢献に取り組んでいることを学びました。補償だけではない、地域に密着した保険会社の姿とは一体どのようなものなのでしょうか。

質問1. 名古屋市と連携してどんなプロジェクトを実行していますか?

主な取り組みとして、国内で初めて「孤立死等に係る家主費用負担を軽減する自治体向け保険の提供」を開始しました。単身高齢者が増え、孤立死が増加しています。孤立死のリスクは、住宅を貸す大家にとって大きなもの。それゆえ、部屋を借りられずに困る高齢者が少なくありません。当社は、大家の費用負担を軽くする保険を設け、単身高齢者が暮らしやすい環境をつくっています。この他、交通量が多い名古屋市では、安全運転のサポートも重要なテーマです。当社は、自動車の運行データを車載器で集め、活用する「交通安全EBPM支援サービス」にも力を入れています。

社

質問2. 市との連携を通してどんな姿を目指していますか?

包括連携協定によって地域におけるネットワークを広げることが目標です。「できることから始める」をモットーに、干潟の清掃などのボランティア活動、募金、セミナーなど、まちの人と直に接するようにも努めています。名古屋市と市民のニーズを把握した上で、寄り添った支援やサービスも提供したいです。

社

質問3. 地域と関わる上で役立っている自社の強みはなんですか?

事故・災害による被害を未然に防ぎ、事故が発生した場合も回復を支援できる自動車保険会社の事業を強みとして、自動車保険の車載器からデータを集めています。デジタル技術や自動車の走行データを使い、事故が起きやすい場所などを把握し、行政機関とともに施策を立てるなど地域や社会とともに課題を解決しています。

社

取材の感想...

損害保険事業は、交通事故や火事への保険を提供するものだと考えていました。しかし、あいおいニッセイ同和損保は、ボランティアなどを通してまちの人と直接関わることで地域のニーズを発見し、新たな支援を考えて提供しています。お話を聞いて、地域への貢献度が大変高い企業だと感じました。これからも地域とのネットワークをますます拡大してほしいです。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

MS&ADインシュアランスグループの一員としてグローバルに事業展開する世界トップ水準の保険・金融グループを創造し、持続的な成長と企業価値向上の実現を目指す。社会・地域の課題解決にお客様とともに取り組むことで、より良い未来を創造する「CSV×DX」戦略として、デジタル・データを活用。

社

AI OI NISSAY DOWA INSURANCE Co., Ltd.



名古屋市と創る子どもの未来

レゴ® ブロックをモチーフとした日本唯一のテーマパークであるレゴランド®・ジャパンは、2022年春に名古屋市と包括連携協定を結びました。連携事業の内容を伺うとともに、レゴ® ブロックを使ったワークショップを体験させていただきました。

質問1. 名古屋市と連携してどのような事業を行っていますか？

主な事業は三つあります。ひとつ目は「子どもの教育活動推進への協力」です。市内の小学校でレゴ® ブロックを活用したワークショップに取り組んでいます。ふたつ目は「海の環境保全活動への協力」です。体験型水族館「シーライフ名古屋」では子どもたちにSDGsについて学んでもらい、目標の達成に貢献してきました。三つ目は「名古屋市の魅力発信への協力」です。レゴ® ブロックで、名古屋城などの市内の観光地や地下鉄の路線図をつくるコラボレーションをしています。名古屋市の魅力と活力にあふれるまちにすることが目的です。

社

質問2. 名古屋市と連携する意義はなんですか？

元々、パーク内でワークショップなどを開催していましたが、連携によって大規模かつ持続的に取り組めるようになりました。以前よりも多くの人に活動を知っていただいています。名古屋市から依頼を受けて、他の企業様とも協力することも。活動の幅が広がったと感じています。

社

質問3. レゴランド®・ジャパンと海外のレゴランド®の違いはなんですか？

レゴランド®・ジャパンはスタッフの接客態度も良く、制服の刺繍などの品質も高いと評価を得ています。四季折々のイベントも特徴的で面白いものばかり。海外のレゴランド®からも参考にされています。

社

質問4. 今後のビジョンについて教えてください！

レゴランド®・ジャパンは、レゴ® ブロックを使った初めての経験や失敗から、子どもたちが「楽しさ」を得られるテーマパーク。将来的には「名古屋＝レゴランド®のあるまち」というイメージを持ってもらえたら嬉しいです。

社

LEGOLAND Japan 合同会社

レゴ®・ブロックやレゴ®モデルに触れて創作できる体験型のテーマパークとして2017年4月1日に名古屋金城ふ頭にオープン。日本初上陸、世界7カ国8ヶ所目の展開となる。遊びと学びにあふれる教育的な要素を持ったテーマパークとして独自のスタンスを貫きながら子どもたちの創造力を刺激する。

取材の感想...

レゴランド®・ジャパンが、名古屋市と連携しながら、子どもたちと一緒に成長していく企業であることを学びました。子どもたちが大人になったときに「名古屋＝レゴランド®」というイメージが根付き、次の世代へ幸せが広がっていくといいと思います。



ボランティア活動で 地域と学生の可能性を広げる

地域のボランティア活動に学生が参加する。愛知学院大学は、こうした実践を名古屋市と連携し、主にキャンパス周辺の北区の方々と行っています。どのような思いで、この事業を行っているのでしょうか？

質問1. 名古屋市と連携したボランティア実践はどんな事業ですか？

北区で実施されているボランティア活動に学生が主体性を持って参加することを軸とした事業です。北区の地域コミュニティに入り込み、体験と座学を交えた講義を半年にわたって行います。2023年度は、運動会の運営や防犯の啓発などを体験しました。



質問2. ボランティア実践において大切にしていることはなんですか？

難しく考えずに、まずは参加してもらうことです。学生には初回から座学ではなくボランティア活動に参加してもらっています。活動への参加を通して、地域の人の声や自分たちの身の回りの出来事を実際に知ることができます。そこから地域の課題にも関心を持ってもらいたいです。



質問3. ボランティア活動を通して、学生にどんな変化がありましたか？

学生は普段、幅広い年齢層の人たちと会話することは少ないのですが、自ら多世代の人と気さくにやり取りする場面が増えていました。一緒に参加した学生さんからも、ボランティア活動を通じた地域の人との交流が魅力的で、学びが多かったと聞いています。

質問4. 実践を踏まえて、どのような社会人になってほしいですか？

「地域で活躍する人材」になってほしいです。この先、仕事と家庭以外に労力を費やすことは容易ではないでしょう。それでも地域のために行動する意味を見出し、未来を担える人たちが増えれば地域は豊かになる。このような人材育成も社会連携の大きな役割だと思います。

取材の感想...

今回の取材では、先生だけでなく授業に参加した学生さんにもお話を聞き、ボランティア実践の魅力を学校と学生のふたつの視点から知ることができました。このような活動が今後さらに広がっていかれると思います。



愛知学院大学

70年の歴史を有する中部圏の伝統ある大学。10学部16学科と、短期大学部1学科、大学院9研究科に学生総数約11,000名が在籍。また、4キャンパスをもつ一大総合大学へと躍進を続ける。「行学一体」「報恩感謝」を基盤として、自分の可能性に挑戦し、協働の場で主体的に活躍できる人材の育成を目標とする。

キレイな生活をつくる

化粧品や洗剤などで高いシェアを誇り、私たちにとっても身近な企業である花王。今回はどのようにして公民連携を進めているのか、SDGs達成に向けての観点も含めて、企業の取り組みについてお話を伺いました。

質問1. 名古屋市と連携してどのような事業を行っていますか？

花王は、ハンドソープなどを扱う衛生習慣のプロとして、幅広い年代向けの手洗い講座を実施しています。名古屋市とも連携して取り組んできました。例えば、「なごや水フェスタ」というイベントで、名古屋市上下水道局と協働し、正しい手洗い方法を紹介しました。



社

質問2. 名古屋市と連携する意義を教えてください。

教育機関や企業、各種団体など、多方面から講座の依頼をいただくようになりました。より多くの方々に衛生や環境、健康、美容に関する知識をお伝えすることで、私たちの目指す「生活者のこころ豊かな暮らし“Kirei Lifestyle”」の実現に一步一步近づいています。人口が多く、子育て支援に力を入れている名古屋市との連携により、次世代育成にも貢献したいです。



社

質問3. 名古屋市にどんな影響を与えたいですか？

名古屋市民のみなさまの衛生知識の理解が深まり、生活がより良くなるようにしたいです。花王では社会貢献と企業活動を両立するためになにができるかを常に考えています。近年も、メイクや身だしなみなどに関する多彩な講座を企画してきました。今後も市民のみなさまの要望を積極的に取り入れて、生活に役立つ活動を続けていきます。



社

質問4. 社会課題解決のために、普段から取り組んでいることはありますか？

商品開発の段階から、SDGsの「誰一人置き去りにしない」という理念を念頭に、幅広い年齢や肌質に対応できるよう、試行錯誤を重ねて一万種類以上の商品を開発してきました。みなさまに寄り添うことで、花王を身近に感じてもらおうと考えています。



社

花王グループ
カスタマーマーケティング株式会社
ひとつの石けんへの品質のこだわりから始まった日本を代表する日用品メーカー。消費者と顧客の立場に立った“よきモノづくり”で、世界の人々の豊かな生活文化の実現に貢献し、生活者の持続可能なライフスタイルを送りたいという思いや行動に応えることを目指す。「豊かな共生世界の実現」というパーパスのもと事業改革を推進。

取材の感想...

花王は、市民の目線に立って暮らしに寄り添い、そして社会のサステナビリティを見据えて様々な社会貢献活動を行っていると感じました。名古屋市との連携によって、啓発講座やSDGsへの取り組みがより活発化することが楽しみです。



おわりに

いかがでしたか？企業・団体がそれぞれの強みを活かして市と連携し、地域の課題解決に取り組んでいる姿がみえたのではないのでしょうか。

このレポートが、社会課題への理解を深め、自分なりの向き合い方を考えるきっかけになれば幸いです。

最後までご覧いただき、ありがとうございました。



名古屋市では、大学・学生との連携に関する取り組みもたくさん実施しています。

下記のサイトで、若者のみなさんに向けた情報を発信中。

まちに関わる機会も提供していますので、ぜひチェックしてください！

名古屋市は、「学生タウンなごや推進ビジョン」に掲げる
「学生が学び育ち、躍動し、集まるまち・なごや」の実現を目指し、
大学、地域、企業などと連携して学生から選ばれるまちづくりを進めています。

N-chan 学生タウンなごや
ポータルサイト



<https://gakusei-town.city.nagoya.jp/>

NAGOYA CSR REPORT制作協力企業・団体

イオン株式会社 愛知県弁護士会
明治安田生命保険相互会社
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
LEGOLAND Japan合同会社 愛知学院大学
花王グループカスタマーマーケティング株式会社

問合先 名古屋市総務局総合調整部総合調整室
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話:052-972-2217 FAX:052-972-4112 MAIL:a2221@somu.city.nagoya.lg.jp

発行者 名古屋市総務局総合調整部総合調整室
編集 RACCOLABO
デザイン Earth. 米金荘

発行日 2023年12月